

国内クレジット認証委員会御中

審査結果概要書

平成 23 年 2 月 3 日

審査機関名 SGS ジャパン株式会社

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	大山ロイヤルホテル 高効率空冷ヒートポンプへの更新プロジェクト
排出削減事業者名	大和リゾート株式会社
排出削減共同実施事業者名	大和ハウス工業株式会社
事業実施場所	大山ロイヤルホテル（鳥取県西伯郡伯耆町丸山中祖 1647-13）
事業の概要	大山ロイヤルホテルにおいて、既存の A 重油吸収式冷温水発生機 2 基によるホテルの空調を空冷式ヒートポンプ 8 基へ更新し、省エネを図る。
排出削減量の計画	2009 年度：266tCO ₂ /年 2010-2012 年度：354tCO ₂ /年 (事業実施期間合計 1,328 tCO ₂)
国内クレジット 認証期間	開始日 2009 年 7 月 1 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 004 空調設備の更新

2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している

3. 実施した審査手続の概要

審査手続により、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続
日本国内で実施されること	<p>事業計画が日本国内で実施されていることを、事業サイトを訪問して確認した。</p> <p>排出削減事業実施場所：鳥取県西伯郡伯耆町丸山中祖 1647-13</p> <p>事業実施サイトの視察日付：2011年1月28日</p>
追加性を有すること	<p>1) 法的義務がないこと</p> <p>本事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、CO2 排出量の削減を目的として実施されたことを、関係者への質問等により確認した。</p> <p>2) 設備が継続利用可能なこと</p> <p>排出削減事業を実施せず、設備更新を行わない場合、既存設備を継続して利用できることを、現地における関係者への質問及び関係書類で確認した。</p> <p>3) 投資回収年数</p> <p>排出削減事業の投資回収年数は 11.1 年である。投資回収年数計算の根拠データについて、事業者及び関係者への質問及び検算、関連証憑との突合により適切性を確認している。投資回収年数の算出については、補助金を除いた純投資額をもとに算出している。</p> <p>4) 追加性判断における定性要因</p> <p>本事業者はホテル事業として全国に約 30 のホテル経営を展開している。そのグループの中で積極的な環境活動に取り組んでいる。例えば、節水型シャワーヘッドの導入や厨房への節水装置取付、外調機ハンドリング方法による省エネ活動等を行い、従業員への環境意識向上にも繋げている。又、照明の LED 化や厨房のガスから電気化への更新等も今後検討している。こうした活動の中で本設備更新は、グループの足がかりとしてスタートし、グループ展開も視野に入れている。この事業を通して重油等の資源削減が目的でもあるが、この国内クレジット制度の活用により、環境への取り組みに対するアピール効果が期待できることが事</p>

	業実施の一因となっている。
自主行動計画に参加していない者により行われること	排出削減事業者への質問、関係者への質問等により、本実施事業所が自主行動計画に参加していないことを確認している。
排出削減方法論に基づいて実施されること	<p>1) 本排出削減事業は、承認済排出削減方法論 004 に基づき排出削減量を計算しており、また、方法論の適用条件を満たしていることを確認している。</p> <p>適用条件 1: 既存の空調設備より高効率のヒートポンプに更新することを仕様書の数値を用いた算出結果より確認した。</p> <p>適用条件 2: 関係者へのインタビュー及び既存の A 重油吸収式冷温水機の関連書類にて確認し、更新を行わなくても継続的に使用できることを確認した。</p> <p>適用条件 3: 事業実施前および実施後のエネルギー使用量に最も影響を与える営業時間が把握可能であることを、現場査察で確認している。</p> <p>2) その他、バウンダリの設定、ベースラインの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリング方法が適切であることについて、それぞれ質問と関連証憑により確認している。特にリーケージについては、冷却塔等の付帯設備による CO2 排出量が考えられるが、計算の結果排出削減量の 5%未満であることを確認した。</p>

上記の詳細については、別紙「排出削減事業の要件についての確認事項一覧」を参照すること。

4. 特記事項

- ・吸収式冷温水発生機のためフロンはない。

以上